有明海沿岸道路（熊本県側）について

有明海沿岸道路は、有明海沿岸の都市を結ぶことにより、地域間の交流・連携を強化するとともに、深刻な渋滞箇所が存在する国道3号、国道208号等の混雑緩和や交通安全の確保を目的として計画された高規格道路です。

有明海沿岸道路（福岡県大牟田市～佐賀県鹿島市）においては、平成6年12月に計画路線（L=55km）に指定、平成17年3月までに全線整備区間に指定され、自動車専用道路39.2kmが供用されています。

有明海沿岸道路（熊本県側）は、熊本県熊本市から福岡県大牟田市までの道路で、福岡県大牟田市（三池港IC）～熊本県長洲町において平成27年4月に都市計画決定されてます。

また、三池港ICの開通後に発生した高潮浸水による通行止めなど、災害発生時における機能確保に向けて、三池港ICから荒尾競馬場跡地付近まで約2.7km区間が令和3年度に本格的に工事着手され、更に、熊本県内初の事業区間となる荒尾道路（荒尾市荒尾～大島付近約2.2km）が令和5年度に新規事業化され、「長洲町～玉名市」区間についても、計画段階評価着手されました。

新たな観光ネットワークが形成されます

■温泉地やレジャー施設等の多様な観光・レクレーション施設が分布しています。

■北の佐賀・柳川方面、有明海を隔てた島原方面、南の熊本・天草方面に分布する観光資源とを繋ぐ新たな観光ネットワークが形成されます。

沿岸地域の企業立地環境が向上します

■企業立地においては、高速道路ICへの近接性が重視される傾向にあり、特に30分圏内を希望する企業が約8割となっています。

■沿線地域の高速道路への連絡性が高まり企業立地の促進が期待できます。

▲企業アンケートによる
事業所から高速インターまでの希望時間

災害に強い道路網

■九州北部と熊本県内を結ぶ国道501号、国道208号は平成28年熊本地震発生時、人や物資の輸送車両や緊急車両が流入し、激しい交通渋滞が発生しました。

災害時の代替ルートの確保の観点からも有明海沿岸道路（熊本県側）の整備の重要性が再認識されました。

写真① 熊本地震直後の国道501号（熊本市西区河内町）

写真② 熊本地震直後の国道208号（玉名市田崎）